

業績ハイライト

■決算概要

- ・売上高は、2セグメントともに販売量が増加し増収
- ・営業利益は、為替影響、機能強化費用の計上などにより減益
- ・経常利益は、補助金収入、金融費用の減少があったものの減益

当期は、半導体、ディスプレイ、香料マーケットが堅調に推移。積極的な拡販に取り組んだ結果、感光性材料セグメント、化成品セグメントともに販売量が増加しました。売上高は、前年同期比1.5%増加の18,183百万円となりました。利益面では、上半期を中心とした為替影響および機能強化費用を計上したことから、営業利益は同45.4%減少の527百万円、経常利益は同40.1%減少の412百万円、当期純利益は同50.2%減少の233百万円となりました。

	当期	前年	前期比
売上高	18,183百万円	17,919百万円	+1.5%
営業利益	527百万円	688百万円	△45.4%
経常利益	412百万円	527百万円	△40.1%
当期純利益	233百万円	468百万円	△50.2%

■当期のポイント

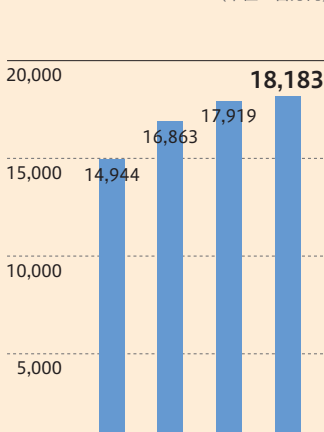
- POINT 1** 感光性材料セグメントは、半導体向け、およびディスプレイ製造向け感光性材料のマーケット拡大と需要増により販売が好調に推移し増収、上期の為替影響等により減益。
- POINT 2** 化成品セグメントは、香料材料分野は海外販売量が増加、溶剤分野は電子材料用途を中心に堅調に推移、ロジスティック分野は、タンク契約率、回転率共に高水準で推移し増収、為替影響により減益。
- POINT 3** 経常利益は、金融費用の低減を進めたものの、為替差損の計上等により減益、当期純利益は、役員退職慰労引当金の繰入等により減益。

業績概要

*2014年度より非連結開示となっております。

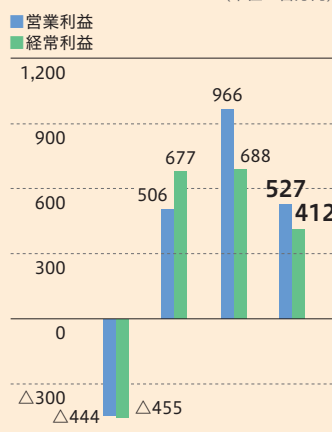
売上高

(単位：百万円)



営業利益/経常利益

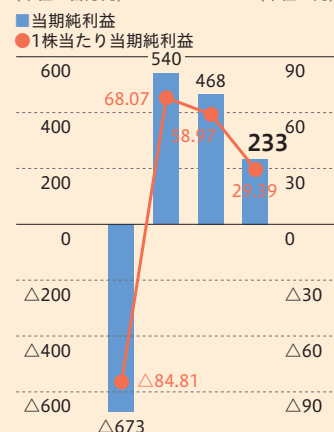
(単位：百万円)



当期純利益/1株当たり当期純利益

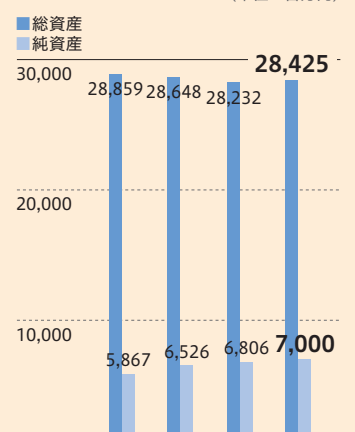
(単位：百万円)

(単位：円)



総資産/純資産

(単位：百万円)





代表取締役社長

木村 有仁

既存分野の収益拡大、組織能力の向上および 新分野の開拓により一層の収益成長を図ります

当期の振り返り

当期の事業環境は、世界経済では欧米の緩やかな回復が見られたものの、原油価格の下落や英国のEU離脱などへの情勢不安から急速な円高が進み、日本国内の企業業績に大きな影響を与えました。当社の対面市場においては、半導体、ディスプレイ、香料マーケットが堅調に推移したことから販売量が増加し、売上高は増収となったものの、利益面では上半期を中心とした為替影響などにより、減益となりました。

中期的な方向性と当期の取り組み

～さらなる成長へ向けた組織能力の向上と基盤整備～

現在、情報・通信技術の進化と、様々な電子デバイスの革新により、人々の生活が大きく変わりつつあり、より高い利便性・快適性を求める動きは世界的に加速しています。この社会的な要請に対して、当社は創造的かつ先進的な製品・サービスの開発を通して、グローバルな競争力を強化することで事業成長を果たし、ひいては、社会、人類文明に貢献していきたいと考えています。

この実現のため、現在、事業の拡大、財務体質の改善および組織能力の向上の3点を平行して進めています。当期は、①マーケティング・研究開発機能の強化、②生産技術・品質管理の高度化による資産効率の向上、③優秀な人材の確保と生産性向上のための人材開発機能の強化を進めました。これらの取り組みにより、事業の拡大と同時に生産性の向上を図り、収益拡大につなげ、企業価値を上げることで株主共同の利益を向上させていきたいと考えています。

組織能力向上に向けた取り組みの一つに「マーケティング・研究開発機能の強化」を挙げましたが、当社は、創業以来「当社の生命線は研究開発力にある」という理念のもと、独創的な視点を大切に研究開発を進めています。また、確かな技術力と市場ニーズを見据えた迅速な対応により、有機合成、分離精製、プラントエンジニアリング、化成品物流ターミナルと事業分野を着実に拡大し、発展してきました。今後も、新たな領域の開拓に力を入れ、マーケットで望まれる製

品を開発することを重視しながら、新規事業の創出に向けた研究開発活動を推進していきます。

電子材料関連の市場では、ビッグデータ^{※1}の活用や、IoT^{※2}、AI^{※3}などの進化による、情報・通信技術の普及・拡大が続いています。このような情報の高度化に向けて、半導体の微細化が求められ、実現するための材料である機能性化学品の需要がますます拡大しています。同時に、半導体は産業面だけでなく、日常生活に不可欠な電子デバイスや車の自動運転などへ広く使われるようになりました。新興国の所得拡大による電子デバイスの普及も追い風となり、半導体は一層の需要拡大が見込まれています。これらに対応するため、2016年9月に感光性材料セグメントにおいて、先端半導体向け光酸発生剤(PAG)の製造ラインを増設しました。詳しくは、右ページ「最先端半導体向け製品の生産能力増強」をご覧ください。

2017年を迎えて、世界経済は緩やかに持ち直してきました。革新を遂げる素材産業の中でたえず成長し続けるよう、今後も既存事業の成長を進めるとともに、次世代を見据えた基盤の整備と新事業の創造により、さらなる収益性向上を目指してまいります。

株主還元の方針

株主の皆さまへの還元策については、安定配当の維持を基本としつつ、安定的な経営基盤を確保しながら、業績、配当性向、内部留保などを総合的に勘案して決定しています。これらの方針を踏まえ、当期の配当は、期初の計画通り1株当たり年間10円とさせていただきました。今後も、事業の拡大と財務体質の改善とのバランスを勘案しつつ、株主の皆さまへの還元を行っていききたいと考えています。

株主の皆さまにおかれましては、今後とも変わらぬご支援を賜りますようお願い申し上げます。

2017年6月

木村 有仁

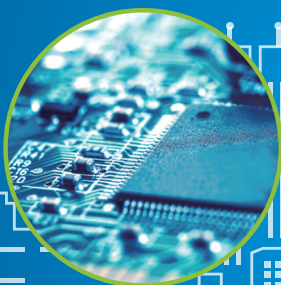
※1 ビッグデータとは…
膨大で多様な「大容量データ」のこと。ウェブサイトの情報や、メール、GPS(全地球測位システム)、機械センサーなどからリアルタイムで情報が蓄積される。これらのデータを用いて、社会・経済の問題解決や業務の付加価値向上に向けた事業などが広く展開されている

※2 IoTとは…
Internet of Thingsの略。あらゆるモノがインターネットを通じて接続され、モニタリングやコントロールを可能にするといった概念

※3 AIとは…
Artificial Intelligence(人工知能)の略。コンピュータ上で人間と同様の知能を実現させようという試み、またはそのための一連の基礎技術を指す

今と未来の生活を支える感光材

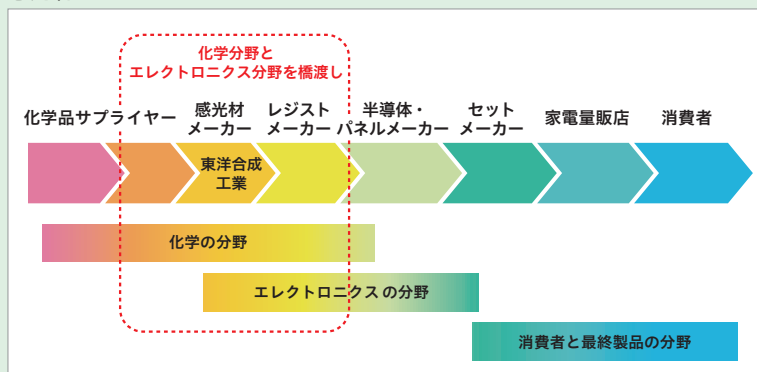
感光材は、現代のエレクトロニクス製品の製造に欠かせない「フォトレジスト」の主要原料です。×



フォトレジスト(レジスト)は、感光材を用いることで、露光によって化学変化をおこす感光材の特長を活かして、パソコンやスマートフォン、車載機器などの心臓部である半導体チップの回路形成、液晶や有機ELといったディスプレイの制御回路、そしてタッチパネルの形成などに使用されます。また当社では、感光材の特長をバイオ分野やナノテクノロジーにも応用し、新たな製品開発と販売を進めています。

感光材が皆さまのもとに届くまで

感光材のバリューチェーン



当社は、化学原料メーカーから原料を調達し、レジストの原料となる感光材を製造してレジストメーカーに提供しています。このレジストを利用して、半導体メーカーは半導体の集積回路を製造し、また、パネルメーカーはディスプレイの表示機能を実装していきます。当社は、まさに「化学」分野と「エレクトロニクス」分野の橋渡しの役目を果たしています。そして、集積回路などの部品を、半導体・パネルメーカーやセットメーカーが製品として組み立て、エレクトロニクス製品として店頭で販売されます。このようにして、感光材はエレクトロニクス製品の製造を支え、消費者の皆さまの生活の豊かさ快適さに貢献しています。

エレクトロニクス製品の進化と感光材の技術革新

私たちの身の回りにあるエレクトロニクス製品は年々軽量化し、パソコンのメモリは大容量化、高速処理化が進んでいます。これらは、半導体の集積度が上がり性能が向上することで実現されます。このように、新たな技術が求められるたび、最先端の半導体集積回路を形成するレジストが求められ、「新世代」と呼ばれる製品が誕生します。一方、我々の生活にIoTが普及し、家電などへ半導体用途の裾野が広がるのと同時に、「旧世代」のレジストも継続して使用されています。すなわち、レジストには、先端技術の発展に伴う製品の多様化と、旧世代製品の裾野の広がりという二つの要因によって、旧世代製品から最先端の製品まで需要が拡大し続けています。

ディスプレイやLED(発光ダイオード)などには、主にg線、i線用の旧世代のレジストが使用され、パソコンに内蔵される3D NANDフラッシュメモリ^{※4}やDRAM^{※5}などの高速・高機能製品には、ArF液浸露光や、KrF液浸露光向けの新世代レジストが使用されます。そして最近は、よりいっそう微細な加工線幅を可能にするEUV(極端紫外線)露光が試みられるようになりました。

これらのレジストの発展を支えるのが、原料となる感光材の技術革新です。当社は、日本の半導体産業が台頭する以前の1970年代に感光材製造を開始し、新世代製品へも、いち早く開発に取り組んできました。さらに現在、EUV露光対応においても、お客さまの技術実現に向けて研究開発を進めています。

※4、5 3D NANDフラッシュメモリ(3次元NANDフラッシュメモリ)、Dynamic Random Access Memory(ダイナミック・ランダム・アクセス・メモリ、DRAM、ディーラム)。ともに、大容量化・高集積化された最新の半導体メモリの一つ

半導体加工技術の発展と対応レジストの生成



最先端半導体向け製品の生産能力増強

2016年9月、感光材製品を製造している千葉工場では、最先端半導体向けの光酸発生剤(PAG)^{※6}の増産に向けて新たな製造ラインを導入し、最先端用途の同製品の生産能力を従来比2倍に引き上げました。今後稼働率をさらに高め、先端領域製品の売上高を一層拡大させていきます。

先端半導体の製造は、回路形成の加工線幅10ナノメートル以下を実現する、ArF液浸露光やEUV露光の世代に入り、量産立ち上げが始まりつつあります。線幅10ナノメートル以下世代に使われる感光材には、従来製品よりさらに厳しい5~1ppb(10億分の1)レベルの不純物管理が求められます。当社では、2012年、不純物含有量5ppb

レベル以下を実現する先端PAGの小規模製造ラインを立ち上げ、供給を開始しました。現在では、製品の低金属化、低不純物化への要求が厳しさを増しているものの、市場にこれを満たすPAGは多くなく、当社PAGへの需要が拡大しています。このことを受け、今回新たに製造ラインを導入し生産能力の増強を図りました。

当社では、現在もあらゆる線幅世代へPAGを供給しており、世界トップクラスのシェアを得ております。今回の新規ラインを活用し、先端領域での事業展開を加速させてまいります。

※6 光酸発生剤(PAG)とは…レジストを構成する一要素で、光を照射することにより酸を発生する機能を持つ感光材



千葉工場
工場長

林 孝雄

大きく取り上げられた化学工業日報の記事

最先端半導体向けPAG

東洋合成工業は、最先端半導体向け光酸発生剤(PAG)を増産する。不純物含有量を1ppb(10億分の1)レベルに管理し、線幅10ナノメートル以下のフォトレジストに対応した先端、すでに供給を開始しているが、需要の拡大に供給力が追いつかなくなっていた。そのため、このほど数億円を投じて生産能力を従来比2倍に引き上げた。今秋から稼働を開始し、ユーザー認定を実施中。早期に稼働率を高め、先端領域での売上高増大を目標とする。

東洋合成、千葉で倍増

10ナノ以下レジストに対応

新規ラインを導入した千葉工場の建屋

先端レジスト用PAGには、さらに厳しい5ppb以下の不純物管理が求められる。液浸露光、EUV(極紫外線)露光の世代に突入り、量産対応として先導レジスト半導体内に不純物含有量1ppb以下のフォトレジスト原料の量産立ち上げが開始されている。最悪なPAG製造に対応した新規ラインを導入した。生産能力は現状の倍に高まった。9月から稼働を開始し、レジストメーカーでの認証が進んでいる。新規ラインは液浸ArF露光、EUVを対応した線幅7ナノ、5ナノ世代の微細化レジストおよび3次元フラッシュメモリ



千葉工場外観

「対応の量産PAGなくとも適用可能。同社はあらゆる線幅世代へPAGを供給しており、世界トップクラスのシェアを得ている。新規ラインを活用して先端領域での事業展開に拍車をかける。」

セグメント情報

感光性材料セグメント

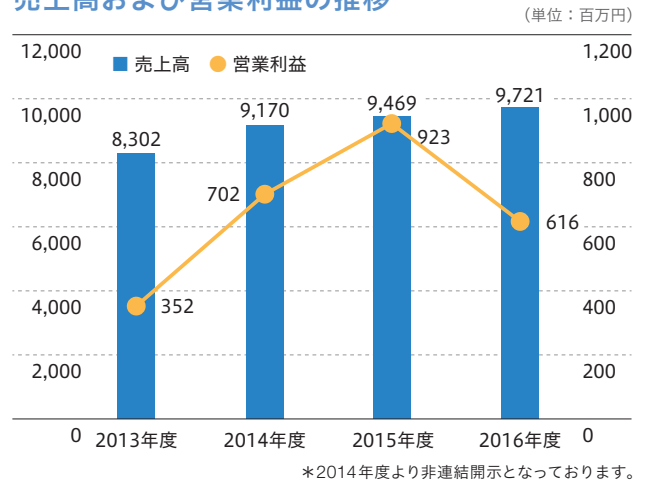
業績の概況



半導体向け感光性材料は、スマートフォン、自動車、LEDなどのマーケット拡大、ならびにフラッシュメモリーの3次元化による需要の拡大により販売が増加しました。ディスプレイ製造向け感光性材料も、スマートフォン、高精細テレビ、車載LCDなどの需要拡大により、販売は好調に推移しました。

以上の結果、売上高は9,721百万円(前年同期比+251百万円、+2.7%)、営業利益は、為替の影響などにより616百万円(前年同期比△307百万円、△33.2%)となりました。

売上高および営業利益の推移



化成品セグメント

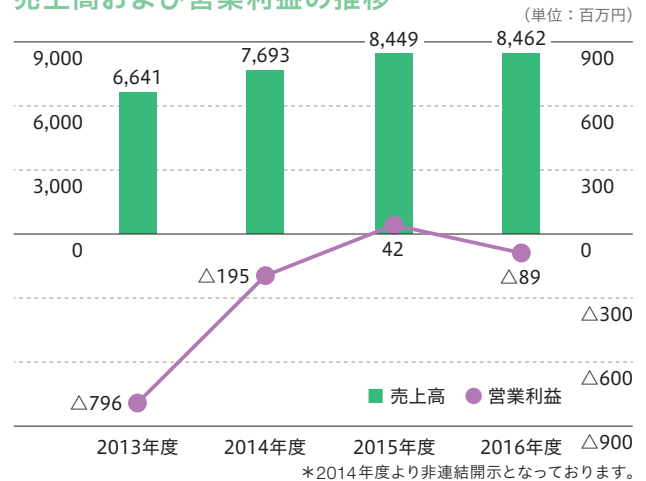
業績の概況



香料材料分野は、海外向けの販売量が堅調に推移したものの、上期の円高影響により、売上高は横ばいとなりました。電子材料向け溶剤関係の製品については、半導体用途で一部減少はあったものの、新製品などの販売により堅調に推移しました。ロジスティック分野は、顧客満足度向上に努めた結果、タンク契約率、回転率共に高水準で推移しています。

以上の結果、売上高は8,462百万円(前年同期比+12百万円、+0.1%)、営業損失は89百万円(前年同期比△131百万円)となりました。

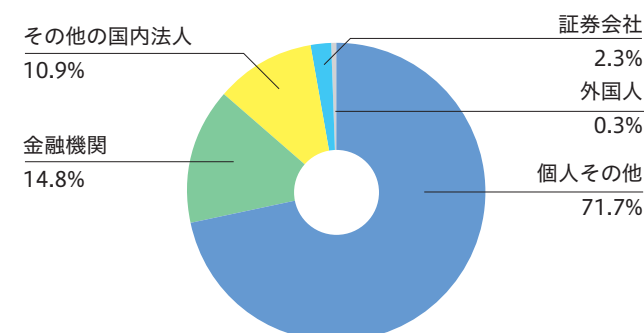
売上高および営業利益の推移



株式の状況

発行可能株式総数	30,000,000株
発行済株式総数	8,143,390株
株主数	6,898名

株式の分布状況



*自己株式を除く単元未満数を含む

大株主

株主名	持株数(千株)	持株比率(%)
木村 有仁	1,094	13.8
木村 愛理	583	7.3
株式会社千葉銀行	298	3.8
株式会社東京都民銀行	298	3.8
木村 正輝	278	3.5
あいおいニッセイ同和損害保険株式会社	248	3.1
株式会社 TG ホールディング	200	2.5
公益財団法人東洋合成記念財団	200	2.5
学校法人早稲田大学	200	2.5
東洋合成工業社員持株会	145	1.8

当社は、自己株式を206千株保有しておりますが、上記大株主からは除外しております。また、持株比率は自己株式(206千株)を控除して計算しております。

会社の概要

商号	東洋合成工業株式会社
本店所在地	千葉県市川市上妙典1603番地
本社及び営業部門	東京都台東区浅草橋1丁目22番16号 ヒューリック浅草橋ビル8階
設立	昭和29年9月27日
資本金	1,618,888,703円
従業員	560名
事業内容	感光性材料、電子表示機器の材料などの開発・製造・販売 電池材料、電気二重層材料などの研究開発・製造・販売 感光性樹脂の研究開発、応用品の製造・販売 化学機械・装置の設計・製作・設置工事 上記物品の輸出・輸入及び倉庫業
事業所	市川工場、千葉工場、香料工場、淡路工場、 高浜油槽所、感光材研究所、西日本営業所

役員

(平成29年6月23日現在)

代表取締役社長	木村 有仁	常勤監査役	森 寧
取締役	出来 彰	監査役	宮崎 誠**
	渡辺 宏一		越山 滋雄**
	宮澤 貴士		
	平澤 聡美		*社外取締役
	鳥井 宗朝*		**社外監査役

株主メモ

事業年度	4月1日から翌年3月31日
定時株主総会	毎年6月下旬
剰余金の配当の基準日	3月31日 中間配当を実施するときは9月30日
定時株主総会基準日	毎年3月31日 ※その他必要がある場合は、 予め公告いたします。
単元株式数	100株
公告方法	電子公告により行います。 公告掲載URL http://www.toyogosei.co.jp/ir/epr.html ただし、電子公告によることができない事故その他のやむを得ない事由が生じたときは、日本経済新聞に掲載する方法により行います。
株主名簿管理人	東京都中央区八重洲一丁目2番1号 みずほ信託銀行株式会社
同事務取扱場所	みずほ信託銀行株式会社 本店証券代行部
株式の諸手続き	口座を開設されている証券会社までお問い合わせください。 特別口座をご利用の株主様は、みずほ証券株式会社およびみずほ信託銀行株式会社 0120-288-324(フリーダイヤル)までお問い合わせください。

第67回定時株主総会決議ご通知

当社第67回定時株主総会において、下記のとおり報告ならびに決議されました。

報告事項

第67期(平成28年4月1日から平成29年3月31日まで)事業報告及び計算書類の内容報告の件

本件は、上記の内容を報告いたしました。

決議事項

第1号議案 取締役6名選任の件

本件は、原案のとおり承認可決され、取締役に木村有仁、出来彰、渡辺宏一、宮澤貴士、平澤聡美、鳥井宗朝*の6名が選任され、それぞれ就任いたしました。

*社外取締役

第2号議案 監査役1名選任の件

本件は、原案のとおり承認可決され、監査役に森寧が選任され、就任いたしました。

第3号議案 補欠監査役1名選任の件

本件は、原案のとおり承認され、補欠監査役に萩原正一が選任されました。

第4号議案 退任取締役に對する退職慰労金贈呈の件

本件は、原案のとおり、第67回定時株主総会終結の時をもって退任された取締役木村正輝氏、森寧氏、坂間好展氏に對し、在任中の功勞に報いるため、当社の定める規定に基づき541,368千円の退職慰労金を贈呈する旨、承認可決されました。併せて具体的な内訳、金額、贈呈の時期、方法等は取締役会に一任されました。

第5号議案 役員賞与支給の件

本件は、原案のとおり、当事業年度末時点の取締役7名および監査役3名に對し、当事業年度の業績等を勘案して、役員賞与総額31,746千円を支給することとし、各取締役および各監査役に對する金額は、取締役については取締役会に、監査役については監査役の協議に一任することで承認可決されました。

第6号議案 当社株式の大規模買付行為に關する対応策(買収防衛策)継続の件

本件は原案のとおり「当社株式の大規模買付行為に關する対応策(買収防衛策)」を継続することで承認可決されました。